近代以降の変化が半端ない！
農村地域から住宅地へ、その足跡をたどれる地域

江戸期には谷山郷に属し、その中の山田村、中村、五ヶ別府村、上福元村（一部）にあたる谷山北部地区は、鹿児島藩内でも上位に位置する人口（21,087 人）と石高（12,648 石）を有する谷山郷を支える田園地帯でした。明治期や大正期にも人口増加傾向にあった谷山町や鹿児島市を、農作物の供給地として支えてきました。戦後になると谷山市の郊外として住宅地も拡大し始め、昭和 42(1967)年の谷山市と鹿児島市の合併以降は団地造成も本格化し、桜ヶ丘団地、自由ヶ丘団地、星ヶ峯団地、皇徳寺団地などが造成され、周辺環境は大きく変化しました。現在でも住宅や商業施設の間に田畑が点在していますが、昭和を知る方々からは、田畑が少なくなったとの声を聞きます。それでも、かつて農村地域であった頃の歴史物語や芸能・文化を伝える文化財は有形・無形に限らず、地域の方々から大切にされ、それらを丁寧にたどることで、谷山北部地区の変化のストーリーに触れることができます。

1. 中世までの谷山北部地区

中世、谷山地域は主に谷山氏の勢力下にありました。一方で、山田は島津氏の一族である山田氏が統治に関わる時期も長く、山田は稲作地域として重要であったと考えられます。また谷山氏は南北朝期には南朝方についており、北朝勢力との戦いも多く、谷山本城以外の山城も周辺に点在しています。また、南朝方の後醍醐天皇の皇子である懐良（かねよし）親王ゆかりの文化財もあります。戦乱の中にあるからこそ大切にされた信仰の場所は、現在にまで受け継がれています。

①川口城跡

応永 24（1418）年に伊集院頼久が島津久豊に対抗するために陣を構えた城とされています。頼久勢は敗れ、戦死した人々の墓がこの地にありました。城は大きく三つに分かれていて、当時の面影が伝わります。

②苦辛（くらら）城跡

皇徳寺団地の造成により現在は城の形が分からなくなりました。通称「外園岡」と呼ばれる場所にありました。戦国期に島津貴久と島津実久が対峙した際に、実久勢が陣を敷いた城でもあります。実久勢が敗れ、勝者となった貴久が入城しています。

苦辛城跡

③皇徳寺跡

曹洞宗の寺院で、谷山氏の忠高によって正平 21（1366）年に建立されました。始めは皇立寺と称され、後醍醐天皇の皇子である懐良親王の御位牌を安置していました。後に皇徳寺と名を改め、現在は開山した無外和尚の供養塔や歴代住職の墓などが残されています。

皇徳寺跡

④波ノ平刀匠遺跡

平安末期に大和国の橋口正国という人物が薩摩に渡り、「砂鉄」「木材」「湧水」の 3 つが揃った谷山の地で刀剣づくりに励みました。家族を招くため瀬戸内海を航海中に荒波に遭遇し、海中に刀を投じると波が治まったことから「波ノ平」を名乗るようになったとされています。現在はゆかりの地に記念碑が建立されています。

⑤三條小鍛冶宗近の遺跡

五ヶ別府町三重野には以下の話が伝わっています。天元 2（979）年に京都から薩摩に逃れてきた宗近は、刀匠の波ノ平より鍛冶を習いました。その後、宗近は京都に戻り刀匠として名を馳せ、三條小鍛冶を名乗るようになりました。

宗近が刀鍛冶を行っていたと伝わる場所に記念碑があります。

三條小鍛冶宗近遺跡の碑

⑥三重野観音

岩穴の中に高さが約 50 ㎝の摩崖仏があります。三重野集落の人々によって大切にされ、六月灯なども行われています。岩穴の中に彫られており、かくれ念仏とも言われていますが根拠はありません。

三重野観音

⑦茂頭（もつ）観音

寺山観音とも呼ばれ、山中にひっそりとあります。巨石の前面に彫りこまれていて、観音菩薩として描かれています。茂頭集落の人々によって信仰され、毎年 6 月 17 日には六月灯として供養も行われています。伊集院にあった雪窓院という島津貴久の正室の菩提寺に関連したものという説もあります。

2. 谷山郷の時代

谷山郷は伊佐智佐郷と山田郷に分かれていた時期もあったようですが、江戸後期には谷山郷として一郡一郷でした。七村あり、人口や石高含めて鹿児島藩内では上位にありました。谷山北部地区は、その中では農民が耕作に従事する地域が広がっていましたが、辺田のように武士が住む集落もありました。この地に暮らす人々は、菩提寺も大切にしながら、農業生産に直接関係するような田の神や水神への畏敬の念も忘れませんでした。また農村地域らしい芸能も現在まで伝わり、神社に奉納されるなど大切にされています。また、鹿児島城下から南薩の西岸方面に抜ける街道も地域を通り、藩主の通行もありました。

①帝釈寺跡

皇徳寺の末寺として南北朝期に創建されたと言われています。藪の中に住職墓などが点在していて、現在は見学しづらくなっています。

②各地の田の神

谷山北部地区は田園が広がっていたことから、江戸期から建立されている田の神が各地に点在しています。現在でも大切にされ、耕地整理記念碑などと田んぼを見守っています。

川口の田の神

③伝伊集院小伝次の墓・弁財天

地元では「こちいどんの墓」と呼ばれています。伊集院小伝次は、島津本宗家の家臣である伊集院幸侃（こうかん）の子です。幸侃は伏見において島津家久に討たれ、子どもたちは薩摩半島の阿多に閉じ込められていました。鹿児島に呼び出され、向かう途中にこの地で殺害されたと伝わります。ただ、小伝次は別な場所で殺害されたとも言われています。墓の周辺には弁財天なども安置されています。

伝伊集院小伝次の墓・弁財天

④大川内観音

大川内集落の個人宅内に安置されています。高さ約１ｍの観音座像で、享保 16（1731）年に久永仲右衛門によって造立されたことが刻まれています。久永氏は人吉城主の相良氏の親族で、戦国期に島津貴久によってこの地に連れてこられたそうです。

大川内観音

⑤大川内の摩崖仏

大川内橋のたもとの露出した巨石に彫られています。磨崖仏のすぐ上を歩道が通っているため目立ちません。この地には現在の人吉の相良氏一族関係とされる久永氏が戦国期に移住したとされ、その久永氏によって建立されたと伝わるものです。

大川内の摩崖仏

⑥辺田学館跡

辺田集落は島津義弘の家臣が居住した集落で、江戸期にも継続します。そうした武士を中心にして慶応元（1865）年に武芸や学問を修練するための稽古所が設置され、辺田学館と呼ばれました。中心となった人物は川畑半平で、学館のあった場所には、薩英戦争や戊辰戦争に従軍した地域の人々の名が刻まれた記念碑が並んでいます。

⑦妙楽寺関係（仁王像・墓地）

現在は浄土真宗の明楽寺がある場所に、明治 2(1869)年の廃仏毀釈以前の妙楽寺がありました。時宗の浄光明寺の末寺で、延享 5（1748）年以前は曹洞宗でした。現在は山中に住職墓や石仏などがあり、明楽寺境内には仁王像が残されています。

妙楽寺の墓地

⑧伊作旧街道

伊作街道は、鹿児島城下から宇宿を通り、笹貫、永田を経由して滝ノ下に至る街道で、現在の日置市吹上町につながります。途中の山道へと入る場所に石が敷かれた坂道が残されています。石を敷いたのは大正期とされ、街道を人々が往来していた雰囲気が伝わります。

伊作旧街道

⑨石壇供養塔

文化 4(1807)年頃、山田の立迫のぬかるみを解消するために石を敷く工事が行われ、その時に使用された石の供養のための供養碑が建てられています。隈元萬助の人名もあり、石壇供養碑は大変珍しいものです。

石壇供養塔

⑩鹿倉の水天

山田や中村の水田開田のために水路が敷かれ、保護を祈願するための水天があります。建立は嘉永５（1852）年で、当時の役人の名前が刻まれています。地域では永谷おとしの水神とも呼ばれています。水天の下には上下に交差する見事な水路があります。

鹿倉の水天

⑪岩屋不動明王

幹線道路から少し外れた溶結凝灰岩の浸食された岩穴の中に不動明王が安置されています。建立された年代や製作者などは不明ですが、清掃などもされていることから参拝者がいらっしゃるようです。

岩屋不動明王

⑫鹿児島市中山町の虚無僧踊（県指定文化財）

中山の主に中ノ村において継承されてきた踊りです。棒踊りの一種で、幕府の命によって偵察にきた虚無僧を農民たちが打ち負かす所作が踊りで表現されているそうです。農民２人に虚無僧１人を一組として六尺棒と三尺棒を打ち合います。現在は白山神社に奉納されています。

⑬山田の鉦踊り（市指定文化財）

鉦踊りは、藩政時代に鹿児島城下の諏訪神社に奉納されていた「御庭踊り」が源流とされています。廃仏毀釈以前は皇徳寺に奉納され、現在は黒丸神社で行われるようになったものです。太鼓や鉦を打つのは、虫送りのためであり、旱魃の際にも踊られたといいます。太鼓打ちが背負う矢旗は神の依り代とされています。

⑭茂頭の棒踊り

江戸期に中村の八田某が伝えたとされています。福永集落では、この八田氏の稽古は棒踊りに限らず、棒術や柔術も兼ねて厳しく行われていたと伝わります。特に茂頭集落の棒踊りは、大正 11(1922)年に英国皇太子が来鹿された時にも披露されるなど有名であったようです。現在は星ヶ峯西・東小学校の運動会などで踊りが継承されています。

⑮各地のおねっこ

谷山北部地区は住宅地が広がる地域に変貌しましたが、まだ田園も残っています。鹿児島弁で「おねっこ」と呼ばれる鬼火焚きが１月初旬には町内会の行事として開催

されています。

⑯モイドン

「森殿」とも書きます。水田内に不自然に林が残され、そこに石塔などが置かれて信仰対象となっています。地域によっては神聖な空間として保存される場合が多く、中山のモイドンも周辺開発が進む中でも残されています。

3. 近代の谷山北部地区

江戸期において、稲作を中心とした農村地域であったのが谷山北部地区です。明治期に入っても変わらず、江戸期から継承された農業技術は全国でも応用されるほど高いものでした。その先駆者であったのが塚田喜太郎です。明治初期に現在の福島県で農業指導を行い、開拓に成功しています。また、江戸期に武士が住んでいた辺田集落では早くから学問所も開設され、人材育成に努めていました。また、農村地域ならではの肥料に使用する骨粉製造の工場が設置され、農耕や運搬用の牛馬飼育が盛んであったことから、馬頭観音も建立されています。こうした農村地域にも道路や鉄道の開発が時代とともに進められ、交通網の充実が谷山北部地区の発展に寄与することになります。

①塚田喜太郎の功績

中村の塚田門に生まれた喜太郎は、明治の初めに福島県の安積(あさか)開拓に招聘された人物です。谷山で培った農業技術を開拓地の入植者に伝え、開田を成功されます。特に「塚田式骨粉直播法」は安積の農業生産を支えました。その功績を記念して令和7(2025)年３月に碑が出身集落に建立されました。

塚田門のあったあたり

②平馬場などの馬頭観音

谷山北部地区は、農村地域であっただけに牛馬を農耕用や運搬用に飼う家々も多かったことから、現在でも馬頭観音が各地に大切にされています。平馬場の馬頭観音は巨石の横に安置されていて、その前では地域の行事も開催されています。

皇徳寺の馬頭観音

平馬場の馬頭観音

③中村と山田村から中山へ

現在の中山小学校校区は、かつての山田村と中村が範囲でした。この地域にはそれぞれに学校がありましたが統合することとなり、明治 20(1887)年にそれぞれの頭文字をとって中山となり、現在の地名にもつながっています。

④大旱魃(かんばつ)の碑

昭和９(1934)年の夏、南九州では未曾有の旱魃に見舞われました。田園地帯である中山地域は大被害を受けますが、この記念碑には危機的な状況の中でも助け合いながら地域の人々で困難を乗り越えたことが刻まれています。

⑤鹿児島本線の鉄道施設

現在の星ヶ峯団地北側にある広木駅は鹿児島本線にあたります。大正２(1913)年に鹿児島駅から串木野駅まで設置され、敷設当時のレンガ暗渠(あんきょ)が現役で線路下に残されています。

鹿児島本線の暗渠

⑥中山小学校の平治分校

現在の伊作峠付近までが中山町の範囲です。そのため、距離は離れているものの峠の入口までは中山小学校の校区でした。そのために大正 5(1916)年に平治には分教場が設置され、昭和 41(1966)年に谷山小学校に統合されました。かつての学校跡には開校の記念碑や門柱、階段などが残り、当時の様子を静かに伝えてくれます。

平治分校跡

⑦谷山市の五ヶ別府支所

谷山北部地区が谷山町や谷山市であった時代に、その行政機能を充実させるため、本庁となる役場から遠隔地には支所が設けられました。その１つが川口にあり、現在は自動車洗車場になっています。

谷山市五ヶ別府支所跡

⑧ろやま公園の招魂塚

皇徳寺団地の一番西側に位置する「ろやま公園」の小高い場所に招魂塚があります。もともとは谷山の海岸にありましたが、潮風によって字が風化することを避けるためにこの地に置

招魂塚

かれました。五ヶ別府や山田から西南戦争に従軍して亡くなった人々の名前が刻まれています。

⑨滝の下の水車工場（骨粉工場）

滝の下にある大滝は、その水量と落差を利用して隣接地に水車動力による骨粉工場が設置されました。骨粉は畑作における肥料として重宝され、化学肥料が製造されるまでは盛んに生産されていました。その水車動力を活用した工場の建物が一部残されています。大滝の周辺は滝も見学しやすいように公園になっています。

水車工場跡

⑩徳組

谷山北部地区の集落では、昔「とっぐん」と称する葬式を手伝う仕組みがありました。葬式の際、家族は葬式の段取りに時間を割くことが困難なため、地域の方々が料理や墓堀りなどを手伝うものでした。また、この「とっぐん」は葬式に限らず、集落の花見などを楽しむ単位としても機能していたといいます。

4. 戦後から現在までの谷山北部地区

明治 22(1889)年には谷山村でしたが、大正 13(1924)年からは谷山町になり、昭和 33(1958)年から谷山市になりました。その変化は地域の在り方にも大きく影響しています。田んぼが広がっていた地域にも住宅地が開発され、新しい道路も通ります。さらに昭和 42(1967)年に鹿児島市と谷山市が合併すると、団地造成も本格化し、みかん畑が住宅地に変化し、特産品としての役割を終えるようになります。一方で、こうした急速な変化や人口増も谷山北部地区の特徴でもあり、それらを背景に新しい住民によるまちづくりも展開されています。

①それぞれの団地造成

谷山北部地区は、かつては農村地域でしたが、現在は宅地造成が進む人口増加傾向にある地区です。特に鹿児島県内でも大規模な団地の造成が昭和後半に続きました。自由ヶ丘団地は昭和 45(1970)年、桜ヶ丘団地は昭和 54(1979)年、星ヶ峯ニュータウンは平成 2（1990）年、皇徳寺ニュータウンは平成 9 (1997)年に造成されています。こうした団地造成に伴い、かつて田んぼだった場所も道路が整備され、商業施設や飲食店が立ち並ぶなど風景は様変わりしました。

②山田農家の注連縄（しめなわ）づくり

注連縄は正月前に必要とされ、特に人口が密集している鹿児島市街地では需要が高まります。市街地近郊の山田は田園地帯が広がり、正月用の注連縄を農家が生産することが盛んに行われていました。

③平馬場の十五夜や運動会

平馬場公民館では、地域の集まりとして現在でも十五夜や運動会の行事を継続して行っています。十五夜は昔から集落で信仰されていた馬頭観音の前で行われます。

④中山小学校の米作り

現在は住宅地が広がり、児童数も安定している中山小学校では、かつての農村地域の物語を受け継ぐように学校園において稲作が行われています。5 年生が 5 月に田植え、10 月に稲刈りをして米作りを行っています。

⑤谷山音頭

谷山市時代から開催されている「ふるさと祭」で踊られます。4 番まであり、歌詞には谷山の名所や特徴が織り交ぜられています。その中には中山もあり、みかんが紹介されています。

⑥果樹栽培の盛んな地域（中山みかん　山田いちご　上之原みかん（桜ヶ丘））

谷山北部地区は平野部は稲作、斜面や山間地は果樹栽培が盛んでした。団地造成が始まる昭和 40 年代までは中山や上之原にはみかん畑が広がっていました。上之原は桜ヶ丘団地に姿を変えたので名残はありませんが、山田では現在でも指宿スカイライン沿いでみかん栽培が行われています。また山田は農協などが指導し、現在でもいちごの栽培が継続されています。

⑦上之原への旧道や井戸

現在の桜ヶ丘団地は、造成される以前はみかん畑やさつまいも畑が広がる地域でした。平野部は稲作、畑作や果樹栽培は山手と土地利用が分かれ、上之原には畑に上るために利用する旧道が数本ありました。シラス台地であった上之原は台地上で水は確保できませんが、麓や台地から移動する道沿いにも井戸があったといいます。現在では、その旧道は団地から平野部への抜け道として利用されています。

⑧谷山校区駅伝大会

昭和 42(1967)年に鹿児島市に合併する以前の谷山市では校区対抗の駅伝大会が開催されており、盛大であったといいます。当時を知る方によると、福平校区と中山校区が強かったそうです。

⑨牟田池

自由ヶ丘団地内にある湧水ため池で、団地用の調整池ではなく、団地造成以前から湧水が集まるため池として農業用に活用されていました。立ち入りは禁止されていますが、周囲から観察することはできます。貴重なガマやベッコウトンボが生息しています。終戦後は、進駐軍がこの池で鳥打をしていたそうです。

【谷山北部地区の主な未指定文化財リスト】

１．中世までの谷山北部地区	
1	川口城跡
2	苦辛城跡
3	皇徳寺跡
4	波ノ平刀匠遺跡
5	三條小鍛冶宗近の遺跡
6	三重野観音
7	茂頭観音
２．谷山郷の時代	
8	帝釈寺跡
9	各地の田の神
１０	伝伊集院小伝次の墓・弁財天
１１	大川内観音
１２	大川内の摩崖仏
１３	辺田学館跡
１４	妙楽寺関係（仁王像・墓地）
１５	伊作旧街道
１６	石壇供養塔
１７	鹿倉の水天
１８	岩屋不動明王
１９	茂頭の棒踊り
２０	各地のおねっこ
２１	モイドン
３．近代の谷山北部地区	

２２	塚田喜太郎の功績
２３	平馬場などの馬頭観音
２４	大旱魃の碑
２５	鹿児島本線の鉄道施設
２６	中山小学校の平治分校
２７	谷山市の五ヶ別府支所
２８	ろやま公園の招魂塚
２９	滝の下の水車工場（骨粉工場）
３０	徳組
4. 戦後から現在までの谷山北部地区	
３１	山田農家の注連縄づくり
３２	平馬場の十五夜や運動会
３３	中山小学校の米つくり
３４	谷山音頭
３５	果樹栽培
３６	上之原への旧道や井戸
３７	谷山校区駅伝大会
３８	牟田池